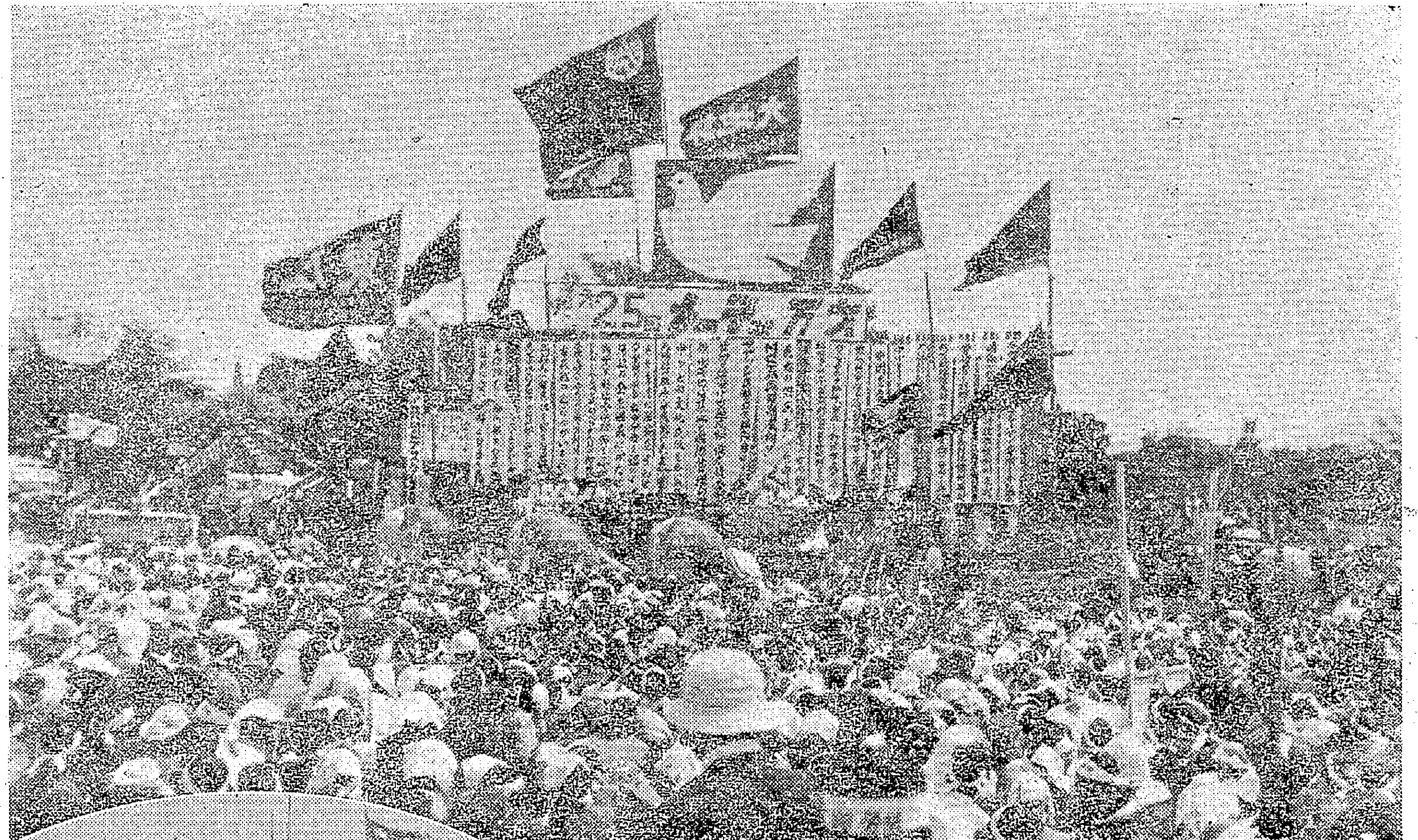
（一）　第参百貳拾號　【第三種郵便物認可】　みいけ　（週刊）　【定価1ク月13円一部3円】　昭和九廿年五月九日（日）

大牟田地區メーデー共同特集號

大牟田共同編集

三池炭鉱労働組合
三池炭鉱職員組合
三池染料労働組合
三池合成労働組合
東洋高圧労働組合
電気化学労働組合
三池製煉労働組合
大牟田市自由労組
電産　港第一分会
〃　港第二分会
国鉄　大牟田労組
映画文化協会
日本機関紙協会
大牟田労組評議会
大牟田市教組
大牟田市職連

戦後最大の統一メーデー



農、商人も初参加
多彩なデモに市民も拍手

働く者の『団結』の力で、牛や馬のようにコキ使われた時代は過ぎた。働く者は、奴隷労働者から近代労働者になつたのだ。

メーデーは働く者の喜びを求める日である。だが、組合運動の自由も、団結や争議の自由も、大資本家たちが金儲けに邪魔にならない範囲でのみ認めるのである。彼等は、農民や商人の目覚めていないことを利用して、選挙と云う手段でもつて国会を思うまゝに動かしている。彼等が政治権力をにぎつているかぎり、働く者が心からメーデーを喜び、祝うことはできない。

第二十五回のメーデー大会に集つた四万の参加者の中に、農民と商人が正式に参加したことは、政治権力を勤労大衆の手に握る闘いを一歩前進したことを示すものである。

この日、前日の大雨はウソのようにカラリと晴れわたり、平和の鳩の上にひらめく真紅の旗がくつきり浮んでいる。

定刻近く、組合旗や、よそをいをこらしたプラカードを先頭に続々入場する。今年のメーデーは、各単組とも今までにない熱の入れかたであつたことが、デモの数やプラカード其の他のよそをい等に表われている。中でも三鉱労組宮浦支部、同本所支部の仮装等は、万場の人気をサラツた恰好である。

十時半、炭婦協の五島より子さんの司会で開会し、議長団に三鉱宮川組合長、三染櫻下委員長、国鉄黒田支部長を選出、高らかに「世界をつなげ花の輪に」を全員合唱の後、運尾大地評事務局長が『第二十五回のメーデーは、再軍備の旗を公然とひるがえして、労働者や農民、商工業者を苦しめている汚職吉田政府打倒の、全市民的団結の場となるよう準備を進めた』と報告。『五年戦争するより、五年話合えば平和は守れる』と小宮実行委員長の挨拶の後、田中、阿具根両国会議員、福岡県知事（代理）右派社会党、共産党、最近つくられた中小企業連合会等からメツセージを受け、全員拍手でこれに応えた。意見発表は三鉱労組有働氏『汚職内閣を倒せ!』と叫び農民を代表して諏訪川流域の小作人代表小宮さんは『大地評、三鉱労組の援助を感謝する。小作人も最後まで闘う』と叫んだ。

詩の朗読（赤玉女子組合員）があり、『金力と権力によつて、勤労大衆の前進を一時的に阻止できても、団結する以外に生きることのできない労働者、農民、商人は団結を強化し、近い将来吉田売国政府を必ず倒す』の大会宣言を、万場割れるが如き拍手で採択した。

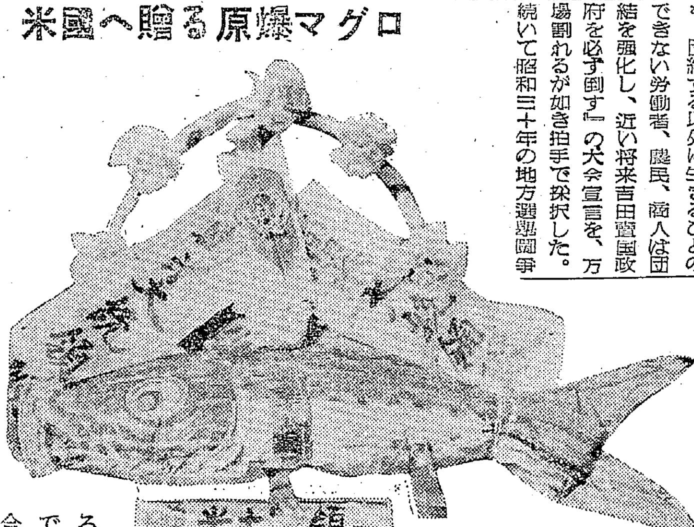
続いて昭和三十年の地方選挙闘争宣言、アイゼンハワア米大統領、教育長、吉田内閣に対する抗議、市長、議長に対する要望書（実行委員一任）を決定、民族独立行動隊の歌声は天高く響き、万歳三唱し祭典は終了　この間水爆のプラカードが燃えたが、大事にいたらず消し止めた。

三隊に別れた市中デモ隊は、一般市民の好寄的眼に迎えられ大牟田市をメーデー一色にぬりつぶした

市長へ要望書

メーデー実行委員会は、四日午前十時、市役所に田中市長を訪ね、メーデー決議による要望書を提出し、「市会議長ともよく相談した上で御返事したい」との市長の希望をひとまず諒とし、来る八日再会を約してひき上げた。その席上市長は「今年のメーデーを見ますと、もう来年当り炭部祭りも、皆様と御一緒にした方がかえつていゝことがわかります。あの素晴らしい仮装なんか見て、市民も喜んでいましたから」との発言は注目をひいた。

米國へ贈る原爆マグロ



米大統領に抗議
原・水爆を禁止せよ

寫真上は三染労組のプラカード―米大統領に贈る原爆マグロ。下は大会で米大統領宛の抗議文読む、合成労組代表

参加14単産六千五百名
市長もデモ隊の先頭に
荒尾地區統一メーデー

初の荒尾地区メーデーも統一メーデーとして曽つて見ない壮大な規模で行われた。これまでは大牟田に食われた形で参加人員も二千名か三千名に過ぎなかつたのが、今年から三鉱四山支部の全員と、三川支部の大多数（荒尾在住者）がこれに加わる事となつたので当日の参加者は十四単産六千五百名、会場である原万田広場を人と旗とプラカードで埋めつくし、気勢一しおあがつた。入口の通路が狭いので入場に手間取り定刻からやゝ遅れて全電通岩田氏の司会で開会議長団に酒井（三鉱三川支部長）山崎（炭婦協四山支部長）下田（市職）の三氏を推し．実行委員長松本荒地評会長は

荒尾の労働運動はこれまで大牟田にさらわれた形だつたが、昨年企闘以後の盛りあがりにより今年かくも盛大に統一メーデーが開催された事はよろこばしい平和と生活を守るためしつかりスクラムを組み、今日を契機として明日への闘いに起ち上ろう

と挨拶、浦事務局長の経過報告に次いで〃吉田税金ドロボー内閣打倒〃〃MSA再軍備反対、平和を守れ〃〃原水爆実験製造禁止と国際管理〃その他十四項目のスローガンを採択、この日特に働く者の代表として白鉢巻、白ダスキ姿で参加した坂口荒尾市長は

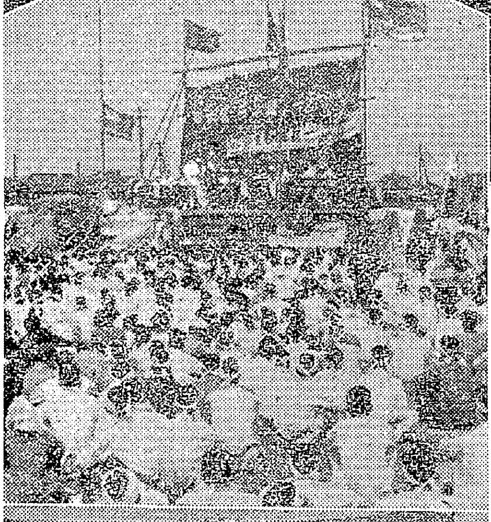
完全独立をかち取るためには国力の充実が必要であり、それには国民一人一人の生活の安定が先決要件である。日本を守るのはオモチヤの軍隊ではなく国民の健康にして安定した生活である。荒尾が勤労者の都市である事を確認し皆様と共に進んで行く事を御誓いする。

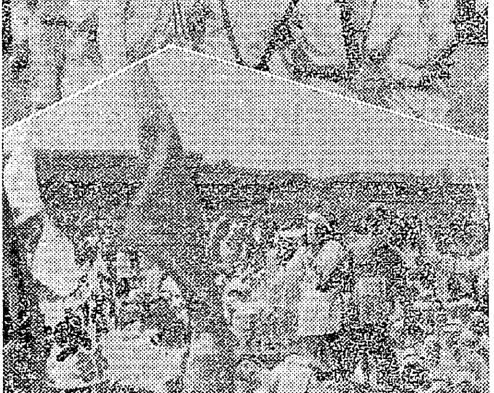
また急遽東京から駈けつけた三鉱出身阿具根参議は

今日は労働者の祭典日であると共にMSA発効の日でもある。吉田疑獄内閣は憲法改悪を押し通すため弾圧政策を強化しながら片方でドンドン軍隊を作つて行くだろう。私は皆様と共に平和を守り抜くため最后まで闘う

と述べ割れるような拍手を浴びたほかにも社会党荒尾支部橋村顧問三鉱労組菊川副組合長、五島炭婦協会長のメツセージをさかんな拍手で受け祝辞、祝電の披露、橋本炭婦協代表はじめ自由労組、市職婦人部、高教組各代表の元気一杯の意見発表、決議文、宣言文の採択と議事は滞りなく進み、労働歌の合唱で意義ある大会の幕切れをかざり、午後二時松本実行委員長を総隊長に議長団、坂田市長、阿具根参議らを先頭に一大デモ行進に移つた。

寫眞は市長に要求書を提出する實行委員ら





寫眞下三枚は荒尾メーデー